『あんッ……んはッ…！』
《深くまできてるよぉ……》
『おーい、前も使うか？』
『ほら、顔上げろ』
『んんッ……な、なんなのだ…？？』
すっ
すっ
すっ
ヌプッ♥
マプッ♥
んッ♥
んぁ♥
ゲッ
ゲッ
ぇ!?

「あやかちゃ～ん♪負け金はどうするの？
払うまで返さないよ？」
「ま、待つのだ！
ぜ、絶対明日持ってるのだ！」
「そんな戯言誰が信じるんだよ？
払えないなら他のモノで払ってもらうしかないねぇ」
「そりゃ、あやかちゃんの身体でだよ、でへへへ」
「ほ、他のモノ……？？」
「ええッ！！」
ナデナデ
ビク!
ガシッ!
ブルブル
ブルブル

「ホントにッ！ホントに払うのだッ！！」
「うんうん、払ってもらうよ♪　すぐにね」
ビクッ
ぎゅわぎゅわ
あッ!!
ダメッ!!
ムニュ
「あやかちゃんはどんなパンツはいてるのかなぁ？」
「キャッ！！なんでスカートめくるのだ！」
チラッ
ピラッ

「あやかちゃん可愛い下着はいてるねぇ
グフフフ……」
「うう～～、見ないでぇ……」
「胸も可愛いちっぱいだ
これは育てがいがありそうだ」
「おっぱいも揉んじゃダメなのだぁ～…」
「おじさんが大きくしてあげるからね、でへへへ」
ビクッ
ひッ
ん
もこもこ
ぴっ
ぎく

「それじゃ、あやかちゃんそこ座って」
「きゃッ！顔近いッ！そんなに近くで見ちゃダメッ！」
だ、だめッ！！
カッ～…
「うわーすげーいい匂いがするわほのかに尿臭いところがなんとも」
「な、何気持ち悪い事言ってるのだッ！や、やめるのだッ！！」

「金払えないんだから言う事聞けよ？な？」
「うう～～～……近くで見ないでェ……」
ぐぐぐ
んッ♥
ビクッ
くぅッ♥
「これがあやかちゃんのクリちゃんかな？
パンツの上からでもはっきりは分かるよ」
クニ
クニ
「んッ……や、やだ……ッ！」
（ダメなトコロなのに
知らないおじさんに触られてるよぉ…）

「んじゃ、いただきま～～す♪」
「あッ!! 何ッ!? えッ!??」
!!
ちょッ
ビクッ
なニッ!?
ビクンッ
「じゅるるッ! パンツ越しのあやかちゃんのチビまんこうめぇぇッ!」
「そ、そんなところ舐めちゃダメなのだぁ～ッ!!」
(おじさん必死でしゃぶりついてるよぉ～)
ジュル
カプッ
ジュルルル♥

「あやか汁が奥からどんどん溢れてくるよ」
「ちがッ！ 違うのだッ！
んんあッ！！！吸っちゃダメなのだぁッッ！！」
《身体が…あそこが熱いのだぁ……》
ビク
ビクンッ
ビクビクンッ
んあッ
だめぇ
「こんなちびっ子でこんなに濡れるなんて
減多にいないよ？？
あやかちゃんはエッチな子だねぇ」
「あんッ！！……ううッ！」
《あ、あやかはエッチな子なの…？》
ちゅぱ
ジュルルルル
ちゅぱッ

「あやかちゃんそこに手をついておしり突き出して」
「こ、こう……？」
（頭がボーっとするのだ…）
え？
フルフル
あ♥
ドキ♥ドキ♥
フル
クイッ
「こ、今度は何するのだ……？」
「ぐへへへ。
んじゃあやかちゃんの初モノ頂きますか」

「な、何するのだッ！
そ、それだけは……
それはダメなのだッ！」
「それじゃあ、
あやかちゃんいただきまーす♪」
やめッ
ちょ
ぞくぞく
ビクッ
ズイッ
クチュ♥
スチャ♥
!!
だめなのだッ
ビク
「やだやだッ！入れちゃダメなのだッ！！」
「もう、遅いよ
観念しようね」

「うほッ♪
あやかちゃんの中キツキツだわ」
「んん～～ッッ！！」
（中にッ！はいってくるぅぅ～～）
ズズッ
ズズズ
ビクッ
んんんんッ!!
ビクッ
「んんッ！はぁん・・・・あぁんッ」
（内臓が押されてるみたいなのだ……）
「こりゃ今までで一番のマンコだわ」
ギッ
グッ

「おふう、あやかちゃんの中気持ちよすぎるよ
おじさん腰が止まらないよ」
「あん…ッ！な、何言ってる…のだッ！」
(ぱんぱんって腰打ちつけてきてるよぉ…)
ぱんっ
ぱんっ
ぱん
ヌポッ♥
ヌチュ♥
ぱんっ
ぱんっ
ビクッ
うあッ
づくッ
あッ
あ♥
ヤッ♥
ビクンビ
「あ～、もっと楽しみたいけど
一回出しとくね」
「ふえ？出す…？？」

「うッ！！ あやかちゃんに初中出しいくぅ！」
「ぅぴゅうぅ～～ッッ！！」
（熱いのが中でビクビクってぇ～）
ビクッ
ビクン
「ふぃ～、でへへへ
あやかちゃに種付け完了ッと」
あっ
ビクンッ
「んんッ！…はぁはぁ…
勝手にあやかの中に出しちゃダメなのだぁ…」
キュウゥゥゥ♥
どぴゅん♥
ビュー
ビュー
どびゅゅゅ
どびゅゅゅ

「さーてと次々行こうか
終わらないしね」
「ふぇ…？　もう終わりじゃないの…？」
ズイッ
ビクッ
「なーに言ってんの？
こんなもんじゃ負け金の5%も払えないよ？」
「そんなぁ～……」
《いったい何人相手にすれば…》
あ♥
フルフル
ビク
す♥
や♥

『んんッ…！あがッ…！！』
（また入ってきたのだぁ…）
ずぶっ
ヌプ♥ ヌプ…
『あッ…ああんッ…はぁはぁ…
さっきのより全然大きいのだぁ…』
『おぉ、やっぱり二人目でもキツキツだな
締め付けがすごい』
あぁッ
ビクンッ
ぞくぞく
また入ってッ

『あんッ……んはッ…！』
《深くまできてるよぉ……》
『おーい、前も使うか？』
『ほら、顔上げろ』
『んんッ……な、なんなのだ…？？』
すっ
すっ
すっ
ヌプッ♥
マプッ♥
んッ♥
んぁ♥
ゲッ
ゲッ
ぇ!?

「あやかちゃんのクチマンコげっとぉ」
「んぶぅッ！！……んぐぅッ！！」
《くちいッ!?口の中にッ…！》
ずぶっ
ぐぶっ
んぶぉぉぉ♥
「ちっちゃいおクチだけど頑張って咥えてね♪」
《口なんて汚いのだぁ～～》
アチャッ♥
くぽっ

「あ～、やっぱちびっ子マンコ最高だわ」
「いやぁ、チコッ子のフェラもなかなかだぜ？
グヘヘヘッ」
すんっ
ずっ
ずんっ
ずんっ
ずっ
あっ♥
んっ!!!
ギュッ
ポタ
ポタ
ずっ
ずっ
ビクン
「んんッ！…じゅるじゅるッ！
じゅぱッ…んぶぅッ！！」
（前と後ろから出し入れされてるぅ～…）

『んんん――ッッ!!』
『『うぅッ!出るッ!』』
《出されてるぅッ!!『両方にぃ!!!
だめなにビュッビュッって
出されてるのだぁ~…》
どぐんっ
ビュルル
ビュッ
どくっ
どっ
ビクンッ
ビュ~ビュ~
どぱっ

「ふはぁ～いやー出した出した」
「これだから若い娘をイカサマでハメるのはやめられませんな(笑)」
ズルンッ
ドロォ
ビクッ
「しかし今回は特上モノですな」
あ♥
「まったくだ(笑)これからもよろしくねあやかちゃん」
は♥
はーっ
はーっ
ビクッ
ビクッ
「はぁ……あひ……あッ……んは……」
は♥

風上三姉妹の次女「さやか」
闇麻雀による負けが原因で三女あやかが
捕られている事を知らされる。

負け金を返済し、妹あやかを救うために
自ら闇麻雀の巣窟に赴く。

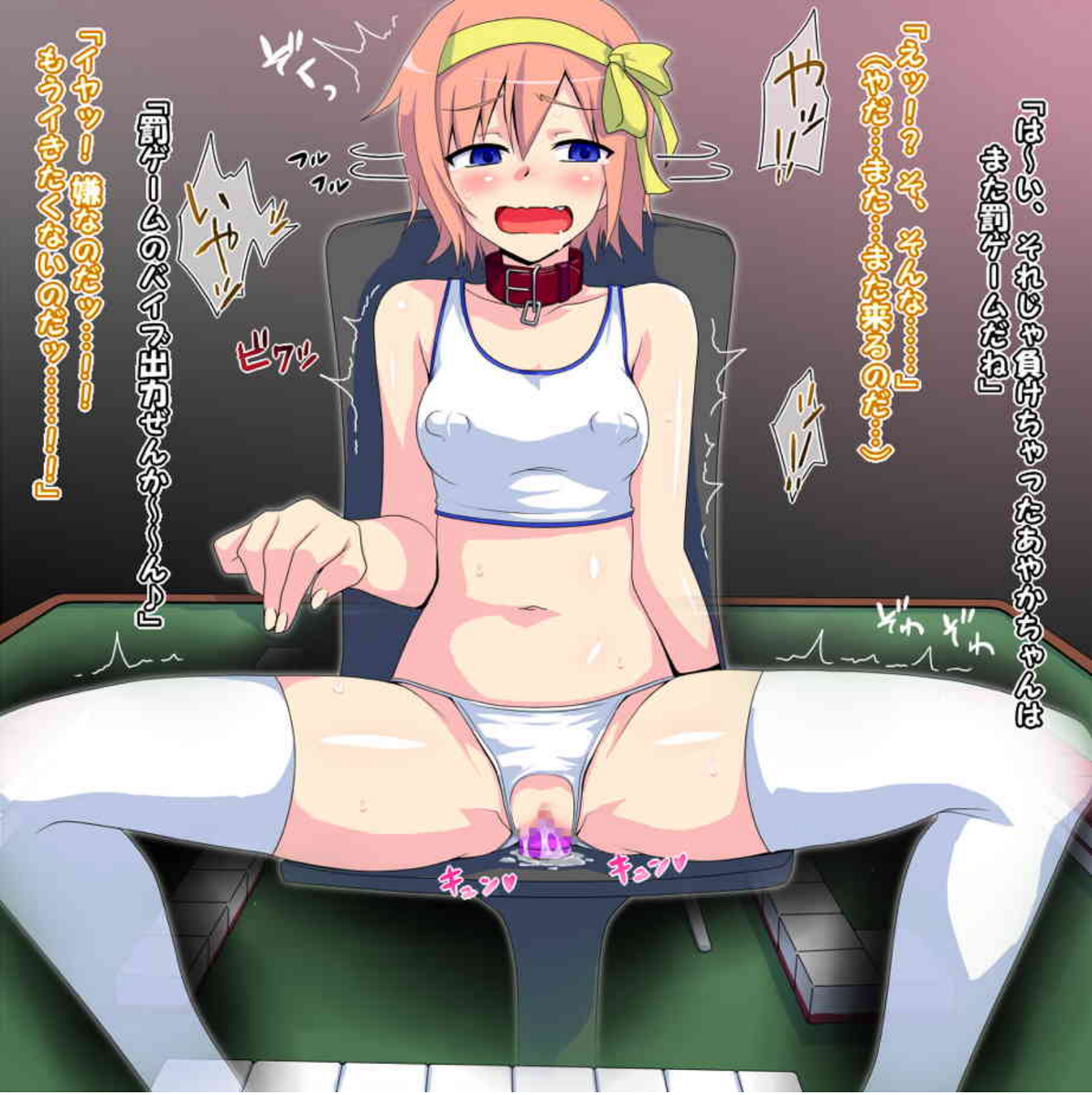
しかし、それすら彼らの計画の一部なのであった。

パサッ
「わざわざこんなところまでお越しいただけるとは(笑)」
「さぁ、約束通りお金は用意してきたわ！」
「さっさと妹を！ あやかを返してッ！」
「んん～？ これでは全然足りませんね？」
「えッ！？
い、いったいどうゆう事よ！？」
「メールでは確かにこの金額だと……」

「あれからまた妹のあやかちゃんが麻雀したいっていうからさ
勝負してあげたんだけどさ。負け金増えちゃってね(笑)」
ニヤッ
パカッ
「そんな馬鹿なッ!!!」
「嘘だと思うんならこのモニターを見てくるかな?」
ドキッ
ぎくっ
(ウソよッ!あやか……どうして…
それにあやかがそんなに負けるはずがないわ…ッ!)

LIVE
「ほら、今も別室で麻雀をしておられますよ？」
「えッ!! あやかッッ!??」
ヴウゲゲゲ
「あやかッ!! 一体どうして……!!?」
「ふふふ…
どうやら今もまた負けているようですね」
ヴゲゲゲ
!!!
うそでしょ!?
フッ

《頭が…ボーっとして…
もう何も考えられないのだ…》
「ほら、次あやかちゃんの番だよ？」
「ふぇ？……ん…こ、これ？」
あッ♡
ビクンッ
ヴヴヴヴヴヴ…
ビクッ
ん♡
ッ♡
「はい、それローン♪
リーチ一発ドラ4でハネ満～～～」
「あらら～あやかちゃん飛びだね
またハコられちゃったね《笑》」
ヴヴヴヴヴ
ヴィィィン


「は～い、それじゃ負けちゃったあやかちゃんは
また罰ゲームだね」
「えッ!? そ、そんな……」
《やだ…また…また来るのだ…》
ヤッ!!
ぞくっ
フルフル
ヤッ!!
ビクッ
「罰ゲームのバイブ出力ぜんか～～～ん♪」
「イヤッ! 嫌なのだッ…!!
もうイきたくないのだッ……!!!」
ぞわ ぞわ
キュン♥
キュン♥

「スイッチオンっと」
「んにゃあぁ――――ッッ!!!」
ビクッ
ビクン
「あああああッッ イグうううッッ!!」
「激しくイッてるねえ、あやかちゃん」
「あほおッ こりゃすごい潮吹きだ(笑)」
ガクガク
ガクガク
ヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴ
プシャアアアアア

「あーーッ…あッ…あッ…」
ジョロロロロロロロロッ
「あらら、あやかちゃんイキ過ぎてお漏らししちゃってますな」
あぉ♥
ガクガク
ッ♥
あ〜♥
は〜
はっ〜
は〜…
はっ〜…
「こーら、ココはトイレじゃないぞ」
ビクッ
「あ…んはッ……あはッ」
「ははは、だめですなこりゃ意識もほとんどとんでますなぁ(笑)」
ブルッ
ブルッ
ビクン
ひくッ
ひくッ
シャアアアア♥
ガクガク
ジョボボボボボ……

「あなた達なんてことを……」
「ぐへへへ。俺達は負けた金を返してもらってるだけだぜ？」
「お願い……もう妹を返して……」
ペタッ
クッ!!
「へぇ～♪ということは、さやかちゃんが俺たちの相手をしてくれるのかな？」
「ははは、妹思いな姉だねぇ私たちを満足させることができれば妹は返してあげますよ」
「くっ……わかったわ約束よ、妹は…あやかは解放してあげて」

「さて、それじゃさっそくご奉仕してももらうかな」
「ひッ！ご、ご奉仕！？」
ビ
ビクッ
「ッ・・・・・」
（何コレ！！男の人のってこんなに大きいの！？）
ビン
「おい何ボサッとしてんだ？
んなことじゃ妹はかえさねえぞ？」
ちょ、ちょっとッ

「わ、わかってるわよッ!」
(なんなのよコレ…
ビクビク脈打ってて
それにすごく硬い・・・・)
ガ〜ッ
シコシコ
ブルブル
「ははは、
ビッチみたいなカッコしてる割には
ぎこちないねぇなぁ(笑)」
シコシコ
シュッ
シュッ
シュッ

「そんなのじゃあいつまで経っても終わりませんよ？」
「しょうがねえなぁ」
ガシッ
んんッ
ガボッ
「ふぇ？何？……
んぶぅッ……！ んん～～ッ！！」
スチュ♥
んぐッ
「ほら、ご奉仕ってのはこうやるんだよ」

「んぼッ…んぐぅぅ…ッんんッ!!」
《く、くるしぃ…ッ それにッ……
苦いのが口の中に広がって…》
ぐぅッ
シコ
シコ
ぬぽぽッ
ぬぽぽッ
ぬぽぽッ
「ほら、もっと奥まで咥えられるだろ?
喉でしごくんだよ」
ゲチュ♥
ズチュ♥
んッ♥
シュ♥
シュ♥
あがッ
「んん~ッ!! やめぇッ!んん!」
《喉の奥まで入れてきてるッ・・・息がぁ…》

「あぁ！で、出るッ！！」
「ふぇぇ？んぐぅッ！！」
どくんッ
んぐぅ♡
ビュッ
ビュ～ッ
ビュッ
ビュッ
「んぐ――――んぐぅッッッ！！！」
《口の中に出してるぅッッ
喉の奥に無理やり流し込まれてるぅッ！》
「どうだ？初めても精子の味は？？
これからしっかりと覚えさせてやるからな」

「ちょ、ちょっとぉッ！
さっきので満足したんじゃないの！？」
「そんなわけないでしょう？
本番はこれからですよ？」
「観念しな、妹のためだろ？」
「そ、そんなぁ……やめてぇ……」
やめて
ビクッ
ガシッ
ぞく
ズル
スッ

「おや？下着は黒ですか
エロい下着をつけてますねぇ」
「エロいカッコといい、エロい下着といい
こりゃとんだ純情ビッチだわ」
「お願いい……みないでぇ……」
（みんなにアソコ見られちゃってるよぉ…）
カ～ッ
づ～
フルフル
ビク
グイッ
パカッ

「それではさっそく初モノ頂きますか」
ちょッ
「えッ…!? ちょ、ちょっとッ!
それだけはッ……ダメッ! やめてッ!!」
ビクン
ダメッ!!
ドキッ
「今更ジタバタすんな!」
「大丈夫、すぐ気持ちよくなりますから」
「せ、せめて…ゴム!…ヒニンしてッ!!」
(生なんてダメッ!絶対だめだよぉ!)
ピトッ
ヌチュッ
ズイッ

「んぎゅうぅーーーッッ!!」
(生で入ってきてるうぅぅッッ)
「おほぉ、これがさやかちゃんの膣内かぁ
こりゃ名器だ」
ビクッ
ビクンッ
「んはッ…お、お願い抜いてぇ……」
(深いい…一気に奥まで押し上げられてるぅ)
「そんな事言って膣は
グチュグチュに濡れてますよ?」
ずんッ!!
ユサッ
コツッ
メリィッ

「あッ…!んんッッ……激しいってば!」
やあ♡
んあ♡
ビクッ
ビクン
ビクビク
ずッ
ずッ
ずぷッ
グプッ
ズチュッ
「そんな事言ってだいぶ膣内は濡れてますよ?」
「やんッ…そんな事ない…わよ全然良くなんか…ないッ!」

「おやおや
胸もずいぶんご立派で」
ビクッ
モミモミ
「ホントに
エロい体してるな(笑)」
ビクンッ
「んんッ…はぁんッ…
さ、触らないでぇ…」
(奥の方を犯されて…だ、だめ…
頭がボーっとして)
パパッ
パパッ
パパッ
パパッ

「がぼぉッ…!!んぶぅッ!!!」
《な、何!?なんなの??》
「ほら、口も使わせろよ」
ガボッ
ズボッ
んぶッ
ビクッ
ずぅ
ずぅ
ずぅ
ヌプッ
ヌチュッ
「んんーッ!んぢゅッ!!」
《上と下から同時なんてッ…》

『おう、しっかりフェラもしろよ
犯されて感じてるのか(笑)?』
ッ!!
がぽッ
キッ
ずぷッ
ずぽッ
ぐぽッ
んぐぅッ
がぽッ
「んんーッ…ぐぅッ!!」
(こ、こいつら調子に乗ってぇ)
「なんだ?その反抗的な目は?
しっかり調教してやるからな」
(ぜ、絶対…こんな奴らに
屈しないんだからッッ…!!)

「反抗的なさやかちゃんには二穴射精のおしおきだな」
ぐぐッ!
ぽッ
ビクン
ぐッ
ぐッ
ぐッ
「んん――ッ!!」
《そ、そんなの無理ッ!それに膣内に出されたら…》
パッ
「いいですね、初中出しさせてもらいましょうか」
「んぐぅッッッ、ぐめぇぇッ!!!」
《だめぇぇ――ッ!!》
フル
フル

「で、出るッ!」
グッ
びゅッ
ビュ〜ッ
ビュ〜ッ
びゅッ
ビクン
「ングゥッ!!
んん――――ッッ!!」
(だめえぇぇ口と膣内
両方にだされてるぅぅ)
どぴゅッ
ドプッ♥
ドプ♥
びゅくッ
ガクガク
(中でビュッビュッって…
い、意識が飛びそううう…)

「あー出した出した
良かったよ、さやかちゃん♪」
ズルン
ビクッ
ドロッ
ぷぴぱぁ♥
ビクン
ぱぱぁ♥
ん♥
あ♥
（だ、出されたぁ…
口も子宮も汚されちゃったよぉ…）
ガクガク
ブピュ♥
トロ～
ピュルル♥
ビクッ
「いやー
種付け中出しはやめられんなぁ」
「これからも妹と一緒に
よろしく頼むよ、さやかちゃん」

風上三姉妹の長女「まどか」は
妹たちの行方を捜していた。
ある情報筋から二人は闇麻雀に負け
捕えられたという情報を得る。
その情報を頼りに
まどかは二人の下へ
向かうのであった。

「あなた達でしたのねッ！
妹達を捕えてるのはッ！」

「おお、これはこれは
風上三姉妹長女まどかさんではありませんか」

「妹たちを返しなさいッ！
もし妹達に何かあったらあなた達許しません！」

「これは物騒な…
私たちは決して強要してるわけではありませんよ」

「そんな戯言を……」

「そこまで言うなら会って頂きたい人物が居るんですがね」
スッ
「会ってほしい…人物…？」
？
「こちらの方です」
「……？？」

「あ、あやかッ!!!?」
♥
ズイッ
「あはははは、久しぶりだね まどか姉ぇ」
「あ、あなたなんて恰好を…一体どうして……」
!!
ドキッ
あやか
「あやかちゃんはね、もう私達の奴隷なんですよ
"性"奴隷というなのね」

「ほら、あやかちゃんお姉さんにしてあげたい事がるんだろ？」
「…そうなのだまどか姉え、あやかが気持ちよくしてあげるね…」
ドサッ
ビクッ
「あ、あやか…？なに、何を言ってるの…？」
ちょ
ゴゴゴ

「あッ……！ やめなさいッ！ やめてッあやかッ！！」
「大丈夫なのだ♪ あやかすっごく上手だよ？」
「うわぁ、まどか姉えのおっぱい マシュマロみたいに柔らかいのだ」
「こ、こらぁッ！ホントにやめぇッ んんッ……！だ、だめぇ……ッ！！」
《あやかぁ……正気に戻って……》
プルン
プリ♥
モミ♥
モミ♥
パサッ
ビクン

「いただきまーす♪
レロレロッぢゅるるるッ!」
「ッ……! はぁんッ!んんッ!!
吸わないでぇ〜……ッッ」
「んちゅぅッ…ぢゅるるッ
あはッ。まどか姉ぇ気持ちよさそうなのだ♪」
ちゅぱ!
ぢゅるるる!!
くぅ♥
ビクン
レロ♥
レロ♥
そこ♥
そこ♥
あ♥
ビク
ぎく
「ふぅうんッ…んはぁッ!
き、気持ちよくなんか…ありませんッ!」
(乳首ばっかり責めないでぇ……)

「ちょ、ちょっとぉッ！あやか！今度はいったい何を……」
あッ
「あは♪まどか姉えはおっぱいも大きいけど お尻も大きいのだ」
「ッ～～～～～～！！！」
（好き勝手に言ってぇ～！ 後で覚えてなさいよぉ～……）
プリンッ
ムチィ

「この下はどうなってるのかなぁ♪」
あッ!!
「ちょ、こらッ!破かないでぇッ!!」
（うう～皆に見られてますわ……）
ビクン!!
だめ～!!
「あはははは♪もう濡れてるのだ!」
ビリビリ
ひくッ
ひくッ
クパァ♥
「オジサン達!この中すごく気持ちいいよッ!入れたい人いる?」
クチュ

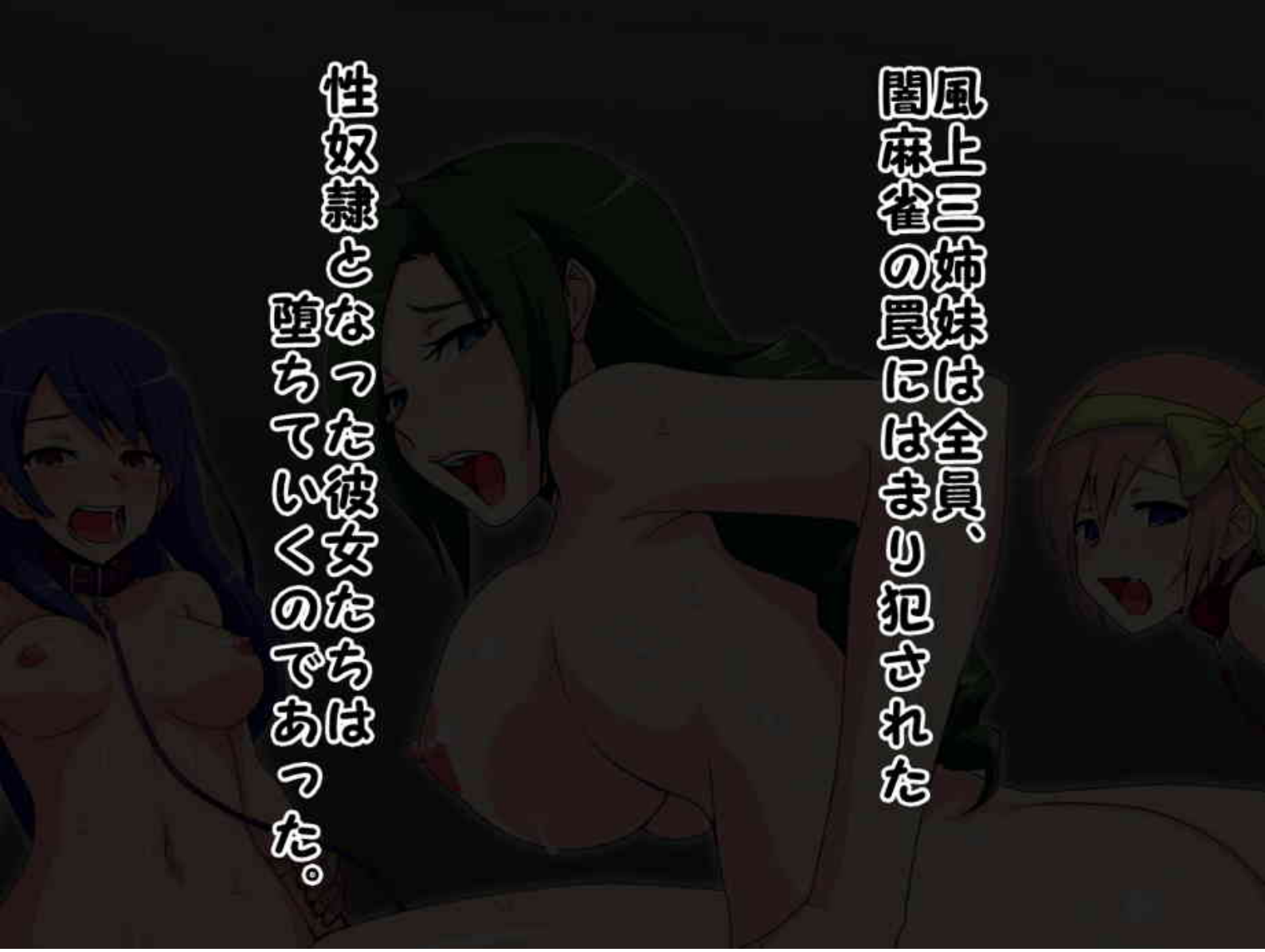
「それじゃぁお言葉に甘えて私が」
「えッ!? なんですの!!!? んくぅぅ――――ッ!!!」
んくぅぅ!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぐぁ!!
「おじさん、まどか姉ぇの中すっごい気持ちいでしょ!!?♪」
ニヤ!!♥
「おほッこりゃいい あやかちゃんの言うとおりだ!」
ずッ
ズル♥
ずぶぶぶッ!!
ニュル♥

「あぁんッ…だ、だめですわッ！こんな事……んあッッ！！」
《ふ、太いい…それに執拗に奥ばっかり責められて……このままでは……》
「まどかさんの膣内がグチュグチュに濡れて気持ちよすぎてすぐ果ててしまいそうだ」
「まどか姉えもオジサンのぶっといチンポで突かれて感じてるのだ！」
ビクッ
はんッ
んぐッ
おぉ
ビクッ
ずぼッ
ずぼッ
ずぼッ
ずぼッ
ずぼッ
きゅん♥
きゅん♥

「で、出しますよッ！」
ビクッ
ひくッ
んぁ
「えッ？らめですわッ……！！
中はらめぇ――――ッッ！！」
《んくぅ――ッ出されながらイッてしまますわぁッッ！！》
ビクン
「あは♪
無許可中出しキタ！！」
「まどか姉ぇおじさんに
種付けされてイッてるのだ！」
びゅく
ビュー
ビュー
びゅく

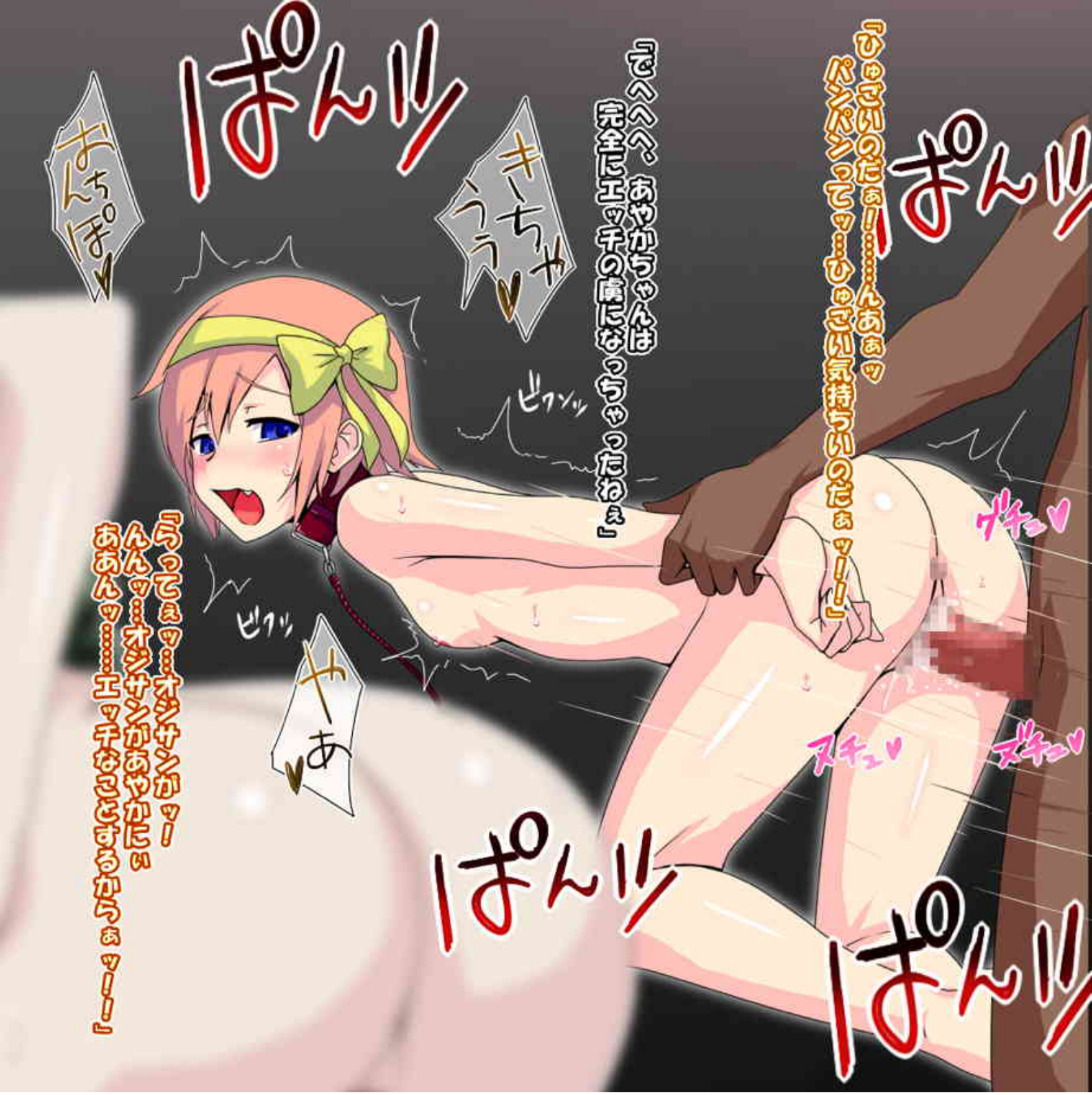
ビクンッ
あ♥
は♥
ガクガク
はっ～♥
はっ～♥
はっ～♥
「あ…んはッ……はぁはぁ…」
《中に…出された上に……
い、イカされてしましましたわ……》
ビク
ゲイッ
ひくひく
ひくひく
ひくひく
クパァ♥
ゴポッ
「うわぁ～まどか姉ぇ！
すごい濃いの出されてるよッ！よかったね♪」

「はーっ年甲斐もなくたっぷり出してしまった」
「次はあやかなのだ！おじさん！たっぷりハメハメしてね♪」
「そうだねぇ、どうせならさやかちゃんも連れてきて乱交パーティやろう」
（さ、さや…か？…さやかはどうなってるの…？だめだ…わ、何も考えられない…ッッ）
「わーい♪ 連れてくるのだ！」


風上三姉妹は全員、
闇麻雀の罠にはまり犯された
性奴隷となった彼女たちは
堕ちていくのであった。

「ひゃぁッ！…らめぇッ！
パンパン早いのらめぇぇッッ！」
すごぃ♥
ぞく
ちょッ♥
あぁ♥
あん
「ダメですわッ！んんあッ！
は、はげしぃぃッッ！！」
あは♥
ビクッ
ビクン
すッ
すッ
すッ
すッ

「ああんッ！ひゅごいぃッ！
またイッちゃうぅぅッッ！！」
「何回でもイカせてやるよ
イけッ！イけッ！！」
「やらぁッ！こ、これ以上…んあッ
イッたらぁ……バカになるぅぅッッんくぅぅッ！」
「バカになっちゃえよ
一生性奴隷として使ってやるから(笑)」
きもちいい♥
ビクッッ
あ♥
ビクッ
プルン♥
プルン♥
ガクガク
やッ♥
ずぼッッ
ぐぼッッ
ぐぼッッ


「ひゅごいのだぁ!……んあぁッ
パンパンってッ…ひゅごい気持ちいのだぁッ!!」
「でへへへ、あやかちゃんは
完全にエッチの虜になっちゃったねぇ」
「らってぇッ…オジサンがッ!
んんッ…オジサンがあやかにぃ
ああんッ……エッチなことするからぁッ!!」
ぱんッ
ぱんッ
ぱんッ
ぱんッ
おんちぽ♥
きちゃうう♥
ビクッ
ビクッ
あ♥
ズチュ♥
ズチュ♥
ズチュ♥

「わ、私はッ…あはぁんッ…！絶対に屈しませんからッ！！ んんあッ」
「それだけ腰振っといて説得力ありませんねぇ（笑）」
きもちよくない
んん
ビク
ビクッ
ぐぷッ
ぐぷッ
ぐぷッ
ぐぷッ
ぐぷッ
「おいおい、いっそう激しく腰振ってイカせてほしいのかねぇ」
あぁ
ボイン
「う、うるさいですわッ……！あぁッ！こんなの…んんッ、こんなの気持ちよくなんかぁッ」

イクッ
イグッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
「ここ」出るッ！
中出しされてイケッ！！ここ
ビュー!!
びゅるる!!
びゅ!!
ビュー!!

「あ～。三人とも完全に飛んでますね」
「ははは、風上三姉妹も大したことなかったですなぁ」
「しばらくはこの娘たちで楽しめそうだ」
「よろしく頼むね♪
あやかちゃん、さやかちゃん、まどかさん」